

特集 交野はどうして、七夕のまち?

交野を彩る七夕

七夕伝説

「七夕のまち」と呼ばれる交野市には、まちの各所に星や七夕まつわる伝説が深く息づいていますが、なぜ交野が七夕のまちと呼ばれるのかわからない方も多いと思います。

今回は、若い方にも七夕を親しんでもらえるよう、織姫・彦星を現代風にデザインしなおし、2人に七夕伝説や各地のお祭りを紹介してもらいます。

七夕ゆかりの場所を巡りながら、太古のロマンに触れてみませんか。

織姫と彦星へ 祈りの歴史

むかし、平安時代の貴族が天野川を夜空の天の川に見立てて和歌を詠みました。特に「伊勢物語」に登場する在原業平とありわらのなりひら紀有常きのありつねの歌は、天野川を七夕の舞台として印象づけたきっかけともいわれています。

後にさいぎょう西行もこのイメージを和歌に残し、交野と七夕の深い結びつきが広まりました。



おりひめ
織姫

Orihime



ひこぼし
彦星

hikoboshi

星空と重なる 天野川の歌

室町時代、磐船神社では織姫と彦星をまつって七夕の行事を行なっていました。また、江戸時代の「南遊紀行」にも、天野川沿いに織姫と彦星をまつる「星の森・星の社」があったとされています。機物神社や星田妙見宮も七夕と関連し、交野の七夕信仰の深さを示しています。



地域で愛される 七夕へ

戦後、機物神社と星田妙見宮で七夕祭りが復活し、地域の伝統がよみがえりました。

2005年からは天の川七夕まつりや市民による逢合橋七夕まつりも始まり、交野の夏の風物詩として親しまれています。

